



光 和

5月号
練馬区立光和小学校
令和6年4月30日

光和小
携帯サイト



充実した教育活動を目指して

校長 矢島 直行

新緑の美しい季節となりました。早いもので新年度がスタートしてから1か月がたちます。入学、進級した子供たちは学校生活にも慣れ、友達と仲よく遊ぶ姿や教室で一生懸命学習に取り組む姿が見られます。体育館で行われました「1年生を迎える会」では、花のアーチを6年生と一緒に入場する1年生がとても嬉しそうでした。1年生の歌「ドキドキドン1年生」では自然と大きな手拍子が起こり、温かい雰囲気体育館を包み込みました。全校で1年生を歓迎する気持ちが伝わるすてきな会でした。

先日の保護者会には、大勢の方にご参加いただきありがとうございました。本年度も保護者の皆様と学校が連携しながら充実した教育活動となるように取り組んでまいります。

さて、本校は本年度から正式にコミュニティ・スクールを導入します。練馬区内では小学校2校、中学校1校が導入されます。コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことです。今、子供たちを取り巻く環境は急速に変化しています。複雑化・多様化する問題を解決するためには、学校や家庭、地域がそれぞれ個々に対応するのではなく、お互いに連携していくことが必要です。どのような子供たちを育てるのかという教育目標をはじめ、教育課題等を学校と保護者、地域の皆様が共有し、一体となって子供たちを育てていくための仕組みがコミュニティ・スクールです。

本校では、令和3年度から、「地域とともにある学校づくりを目指して」を研究主題に設定し、学校評議員を中心にコミュニティ・スクール導入委員会を立ち上げました。協議会では、「情報共有」「双方向の関係」を常に念頭に置き、児童の実態、保護者や地域、教師の願いと思い、PTA活動、教育活動、今日の活動について、お互いの立場から意見や考えを交わしました。お互いが共通理解を図ることができるように努めてきました。

子供たちの教育活動でも大きな協力をいただいています。例えば2年生の町たんけんでは、教員の異動やコロナ禍等により、これまで実施してきたお店体験をどのようにしたらよいかを教員が悩んでいました。導入委員会で相談したところ、コミュニティ・スクール導入委員である地域連携コーディネーターが、商店街34店舗を店ごとに都合のよい時間を調整し、子供たちがグループごとに分かれて訪問するスケジュールを全て設定していただきました。当日、子供たちは円滑にお店を訪問することができ、充実した教育活動ができました。その後、町たんけんは内容や方法も子供たちにとってより充実したものになるよう改善されながら引き継がれています。

このような経験から地域人材の活用にあたり、コミュニティ・スクールの果たす役割が大きく、学校だけではなく地域の協力が教育活動には必要であることを感じました。町たんけんはコミュニティ・スクール導入の有効性を強く感じた一つですが、その他にも農業体験や防災教育、キャリア教育などがあります。今後も子供たちの教育活動がさらに充実したものになるように努めてまいります。